

26年4月実施)、および県内全小中学校を対象にして行った「国際理解教育」についてのアンケート結果(平成25年11月～12月実施)を参考にしながら、「日頃の指導上の課題」、「特別の教育課程」や「国際理解教育」等について幅広く情報・意見交換しました。第二部の「進路状況調査」結果報告は、「協議会報告」(2頁)で紹介されているので、ここでは省略します。第三部は「日本語指導についての学習会」で、日本語学校での日本語講師や小中学校での日本語指導員などの経験が豊富な外村佳代子さんを講師としてお招きし、「日本語指導の基礎知識」について講話いただきました。日本語音声学、日本語の文

法、形容詞等、話題は多岐に渡り、限られた時間では消化しきれないほどの話が提供されました。「日本語指導に関する研修機会の不足」は前々から問題視されていたことです。支援会議でも日本語指導に関する研修の時間・機会はあまり設けてきませんでした。今回実施してみて、このような学習会は継続して行っていくべきではないかと強く感じました。

拠点校と日本語教室の担当者が全県の規模で継続的に集まる会議は、他県ではほとんど例がありません。支援会議の一層の充実を図っていきたいと考えていますので、関係者皆様のご協力を引き続きお願い申し上げます。

学生ボランティア派遣報告



宇都宮大学国際学部特任准教授

若林 秀樹

HANDS プロジェクト「外国人児童生徒支援のための学生ボランティア派遣」は、栃木県内の小中学校などに学生を派遣して、外国につながる子ども支援のお手伝いをさせていただく事業です。参加したい学生が予め「学生ボランティア」として登録し、学校から寄せられた「派遣依頼書」の中から、参加できそうな内容の依頼に対して参加を申し出ることにより派遣が成り立ちます。

今年度7月末現在の「学生ボランティア」登録者数は40名、それに対してこれまで寄せられた「派遣依頼書」は12件です。内訳は自治体の学習教室が1件、小学校が9件、中学校が2件となっています。

自治体の学習教室というのは、真岡市のペルー人保護者を中心に子どもの学習会を開いている組織“AMAUTA(アマウタ)”での、夏休み学習支援です。小中学生が夏休みの間、計6回の支援依頼を受け、毎回7～10名の学生で20名



ほどの子どもの学習支援をしています。日本語を用いて支援できる子どもがほとんどのため、外国語や学習指導の経験が無い多くの学生が積極的に参加しています。学生からは“一見簡単な学習内容でもわかりやすく教えるのは難しい”、“支援しながらも外国人児童や家庭の様子がわかり貴重な経験だ”などの感想が聞こえています。

一方、小中学校への派遣については、11件の依頼に対して派遣が2件と伸び悩んでいるのが

現状です。基本的に2つの理由があります。

学校からの派遣依頼11件のうち、「母語が話せる学生を」との希望が7件に及んでいます。母語の内訳はフィリピン語（タガログ語、ビサヤ語を含む）が4校と最も多く、他にウルドゥ語・タイ語・中国語が1校ずつとなっています。しかし、現在の登録学生の中には、これらの言語が話せる者がほとんどいません。

大学との距離も課題です。依頼元の学校は大田原市・佐野市など宇都宮大学から遠方の地域や、上三川町など遠方でなくても自家用車などの交通手段を必要とする地域がほとんどです。登録している学生の大半は大学の授業が空いている時間帯の活用を考えていますが、距離と交通手段の理由から「参加したくても参加できない」という現状があります。

対策として、前者に関しては、母語が話せなければ学習支援は出来ないというわけではない

ことへの理解が必要と考えます。ここ数年、栃木県も外国人児童生徒の多国籍化が進んでいます。かれらの母語は8カ国語から10カ国語にも渡り、母語を用いて支援する従来のスタイルは難しくなってきました。それに伴い重視されているのが、“やさしいにほんご”による学習支援です。これまで依頼をいただいた、現在は母語支援が必要な児童生徒についても、次第に“やさしいにほんご”による学習支援が必要になり、学生がお手伝いできる機会も増えてくるかもしれません。

距離と交通手段の問題に関しては、もともと近距離の学校だけではなく遠距離の学校のニーズにも応えたいという意識で始めた事業ですので、何とか現在のミスマッチを解消するべく、様々な支援の形を提案しながら、一つでも多くの出会いを創出したいと思います。

進め 日本語教室

第7回

にほんご教室 1年生

宇都宮市立清原中央小学校教諭

小池美佐子

私は、平成26年4月から、異動に伴って清原中央小学校の「にほんご教室」の担当になりました。日本語指導については、赴任する前も赴任してからも分からないことばかりで不安な気持ちしかなく、4月1日から数日間、学校に出勤するのを正直苦痛に思っていました。どうして学級担任ではないのだろう、一人で「にほんご教室」での指導をするなんて、私に何ができるのだろうかなどと、ネガティブなことばかり考えていました。

私は、平成25年の4月から9月まで、宇都宮大学にポルトガル語を学ぶために内地留学していました。恥ずかしいことですが、そのときは自分が日本語指導を行うことを想定していませ

んでした。学外研修では、県内の小・中学校の日本語教室や初期指導教室などを見学させていただき、先生方のご努力やご苦勞に触れ、大変感動し勉強になったのと同時に、自分にはとてもできそうにないな、と他人事のように思っていました。

清原中央小学校のにほんご教室には、平成26年度は13名の児童が通級していますが、いざ授業が始まってみると、大部分の子どもたちは、前任の先生がきめ細やかなご指導を重ねてこられた結果、日本語が堪能で日常会話にも読み書きにもほとんど困っていないことがわかりました。また、にほんご教室では書道にも力を入れて学習していたので、書写にも自信をもってい